

同意第2号

読谷村名誉村民の推薦（大湾清之氏）について

下記の者を名誉村民に推薦したいので、読谷村名誉村民条例（平成元年読谷村条例第10号）第3条の規定に基づき議会の同意を求めます。

記

住 所	那覇市
氏 名	大 湾 清 之
年 齢	77歳

令和6年9月5日提出

読谷村長 石 嶺 傳 實

提案理由

令和5年10月18日付け、本村出身の大湾清之氏が国の重要無形文化財保持者「人間国宝」として琉球古典音楽の分野にて認定されました。本村には、既に5名の名誉村民が認定されておりますが、この度、新たに大湾氏を本村の名誉村民に推挙いたします。

大湾氏は、昭和21年に本村に生まれ、野村流三線演奏家の父のもと、幼い頃から伝統音楽に親しみ育ち、昭和35年、琉球古典音楽野村流の歌三線を学び始めました。昭和41年に琉球古典音楽安富祖流の歌三線を宮里春行氏に師事した後は、安富祖流演奏家として研鑽に励み、昭和43年に初舞台を務め、昭和54年に教師免許、昭和62年に師範免許を取得しております。平成11年には琉球古典音楽安富祖流の伝統的技法を高度に体現しているとして、沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者に認定されております。また、昭和49年には大湾清之琉球古典音楽安富祖流研究所を開設し、後継者の育成も開始しております。

奥行きのある伸びやかな歌声と、細部まで行き届いた確かな三線演奏技法によって、琉球古典音楽各曲を品位をもって表現する大湾氏の演奏は高く評価されており、国立劇場おきなわ主催公演をはじめとする多くの舞台に出演されております。また大湾氏は、琉球古典音楽の理論的研究にも取り組み、研究成果に基づき、安富祖流で伝承が途絶えた「仲節」「長ジャンナ節」等の復曲も行っております。

このように優れた演奏活動を展開する一方、平成18年から沖縄県立芸術大学助教授、平成22年からは教授に就任し、自身の弟子ばかりでなく広く後進の指導にあたり、斯界の振興発展に貢献しております。

よって、大湾氏の功績は読谷村名誉村民条例第2条の称号を贈る条件に合致しているものと解し、読谷村名誉村民に推挙いたします。

ご審議よろしくお願いいたします。

大湾清之氏に関する主な功績

1. 経 歴

①履 歴

現住所 那覇市

氏 名 大 湾 清 之

年 齢 77歳

②年 譜

1960年（昭和35年）父・大湾清之助に師事し、琉球古典音楽野村流を学び始める

1966年（昭和41年）琉球古典音楽安富祖流の歌三線を宮里春行に、笛を大浜長栄に師事

1968年（昭和43年）宮里春行琉球古典音楽研究所第10回鑑賞会にて初舞台

1971年（昭和46年）琉球新報社主催琉球古典音楽芸能コンクール最高賞（笛部門）

1972年（昭和47年）笛の教師免許取得

1974年（昭和49年）大湾清之琉球古典音楽安富祖流研究所開設

1976年（昭和51年）琉球新報社主催琉球古典音楽芸能コンクール優秀賞（三線部門）

1979年（昭和54年）三線の教師免許取得

1981年（昭和56年）笛の師範免許取得

1986年（昭和61年）重要無形文化財「組踊」（総合認定）保持者（現在に至る）

1987年（昭和62年）三線の師範免許取得

1996年（平成8年）沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者（平成21年まで）

1999年（平成11年）沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者（現在に至る）

2002年（平成14年）『琉球古典音楽の表層—様式と理論—』刊行

（大湾清之著、株式会社アドバイザー、平成14年11月3日）

2006年（平成18年）沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻助教授（平成22年まで）

2009年（平成21年）重要無形文化財「琉球舞踊」（総合認定）保持者（現在に至る）

2010年（平成22年）沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻教授（平成24年まで）

2016年（平成28年）「仲節」を復曲

2017年（平成29年）平成29年度沖縄県文化功労者表彰

2017年（平成29年）「長ヂャンナ節」を復曲

2023年（令和5年）国の重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定される

2024年（令和6年）三線音楽公演『古典音楽の美～大湾清之人間国宝記念～』開催